発達障害　用語解説

1感覚統合

体のバランスがとれない、五感などの感覚刺激をうまくコントロールできないトランポリンやブランコなどで複数の感覚を同時に刺激してその子の苦手を改善する方法。

2コミュニケーション

「伝える」「分かち合う」「共有する」という意味のラテン語communicareからきている。人間観の共通性を成立させる情報、思想、態度を共有しようとする試みである。

3マカトン法

コミュニケーションのサイン法のひとつ　手話を分かりやすくしたもの。決まったサインを覚えて家庭での生活をスムーズにする。

4ペアレントトレーニング

子どもの行動を観察→好ましい

行動が取れるよう親の認識や対応そして生活環境を変える→子どもの好ましい行動が引き出され親子関係も改善する→子育ての自信を高める。

5 ABA（応用行動分析）

困った行動を減らし望ましい行動を身につける。

6TEACCHプログラム

視覚的に分かりやすく提示する。決まった手順で行動するのが得意。その特性に沿って理解しやすい環境を作り必要な知識や生活技術を教えていく。

7PECS（ぺクス）

絵カード交換式コミュニケーションシステム

絵カードを子ども自ら選び相手に手渡す事によって要求を伝え絵カードと実際のものと交換する。

8ストレングス視点

潜在的能力の強さ、良い所に焦点を当てる。→ポジティブに捉え、前に進んでいく力が得られ、自分の強さを見出す事が出来る。

9リフレーミング（reframing）

枠組みを再び構築する。

「もう半分しかない」→「まだ半分もある」短所も見方を変えれば長所。

10ストレスマネジメントプログラム　（ストレスとうまく付き合う方法）

ストレスを管理してうまく付き合う自分のストレスがどのようなものなのかその原因は何なのかを知る。

11注意欠如多動性障害（ADHD)

気が散りやすく注意が持続しない。　待つことや我慢することが苦手・落ち着きがなくじっとしていられない。

12学習障害（LD）

 読字障害（話は出来るのに文章が読めない）

 書字表出障害（文字は読めても正しく書けない）

 算数障害（計算が苦手）（展開図から図形を作れない）

13エコラリア（いわゆるオウム返し）

耳にした言葉をそのままに口に出す事で言われたことの意味が分からずにその場で繰り返す。

14折れ線型自閉症

一旦出始めた言葉が途中で消失してしまう現象多くは1歳半から2歳半頃までに起こり、自閉性障害全体の約三分の一に現れます。

15感覚統合障害

五感から得た情報が脳の中でうまく処理されない状態のことで行動や発達そのものに支障が出ます。

16換語障害

単語はよく知っていて喋る事も出来るのに、思ったことを適切な言葉で表現することが難しい障害。

17グレーゾーン

　　 障害のはっきりしていない状態のこと

18クレーン現象

要求する際に指差しではなく、大人の手を引っ張って目的を達成させようとする動作の事。主に言葉が出る前の段階に起こるもので、発達障害の子どもによく見られ、定形障害の子どもでも8ヶ月～12ヶ月頃に一時的に行うことがある。

19サヴァン症候群

障害があるにも関わらず、音楽や絵画などに才能を発揮する人のことです。特定分野の記録力に優れた人も多く、何年の何月何日は何曜日かという質問に即答出来る、カレンダーボーイなどが有名。特定の能力を持つ人。

20発達障害

脳が果たす機能の一部に発達の遅れや偏りが見られる状態

アスペルガー障害／自閉症障害→自閉症スペクトラム症

注意欠如・多動性障害（ADHD）→注意欠如・多動症

学習障害（LD)→限局性学習障害

発達性協調運動障害（不器用）（DCD）

1. 短く明確な言葉で伝える。
2. 一貫した態度で善悪をはっきり教えていく。
3. 頭ごなしに叱らない。

配慮したいポイント

1. 話して伝わらない時は視覚で伝える。（絵や文字）
2. ほめて達成感を持たせる。
3. 周囲がそのこの特性を理解して対応する。

21視覚優位

聞いて理解する力よりも見て理解する力が上回っている事です。広汎性発達障害にしばしば見られ写真や絵カードが効果を発揮するケースです。

22ジャーゴン

日本語にも外国語にも見られない、音の連なり。

23常同行動

くるくる回る、ぴょんぴょん飛ぶ、身体を左右に揺らす（ロッキング）手をヒラヒラさせるなどの行動を反復的に行う事。

24重力不安

感覚統合障害の一つ。頭や身体の動きに対応することが出来ず、強い不安や苦痛を感じます。高い高いなどの急激な姿勢の変化を怖がったり、ブランコなどの不安定なものを嫌う。

25聴覚優位

視覚優位とは逆に聞いて判断する能力が見て判断する能力を上回っているケースです。アスペルガー障害に多く見られるようです

26てんかん

脳に起因し、てんかんなどの発作を伴う疾患です。

27特別支援教育

一人ひとりの子どもが学習面において持っている個別のスぺシャルニーズに対応し、学習への参加を保障していこうとする考えです。

28二次障害

障害の特性に合わせた対応をされなかったために本来持っている一時的な障害に加えて二次的な障害を発症してしまった状態。

29ハイパーレクシア

学習障害の一種。過読症。1～2歳代で、文字や数字などを勝手に覚えてしまったりする為、しばしば子どもが障害ではないことの材料にされがちですが、日常生活には支障をきたします。

30フラッシュバック

過去の出来事にも関わらず、あたかも今体験しているかのような状態になる現象。

31療育

治療教育の略で、障害のある子をより生きやすくしていく為にその子に合った指導で生活に必要な力を身につける

発達障害の場合、下記のような内容で進められることが一般的なようです。

1歳代・・・・母子関係の確立

2～3歳代・・遊びを通して発達を促していく。手遊び歌、身体を使った遊び、ペープサートパネルシアターなど

3～5歳・・・徐々に椅子に座る訓練を行う。マッチング、パズル、作業療法（OT）感覚統合療法など

6歳・・・・本格的な言語療法（ST）ソーシャルスキルトレーニング（SST）など

32 DQ

発達指数

新版K式発達検査、デンバー式発達スクリーニング検査などの発達検査で測る。発語がなくても実施出来る為。主に乳幼児に用いられます。

33 SST

ソーシャルスキルトレーニング。

他人とのコミュニケーション方法や、円滑な日常生活を送る為の技法を身に付けるためのトレーニングで、ある程度発達の年齢の高い、広汎性発達障害などの子どもに行われます。

34 PDCAサイクル　共通講義で説明済み

 (P)Plan計画→(D)Do実行→(C)Check評価→(A)Action改善（P）

35発達性協調性運動障害（DCD）（不器用）

いくつかの動作を協調させて行うことが苦手。「手先の不器、筆圧が弱い」「運動能力の低さ」（縄跳び、スキップが苦手）自分の体の感覚をうまくつかめていないこと。

36 ST（言語聴覚）

 言語についての指導、療育を行う。

37 OT（作業療法）

 運動や遊びを通して感覚を育んでいく。

38 PT（理学療法）

機能訓練、歩行訓練を行う

39 S-S法

カードや道具を使った反復練習で、言葉の使い分け、道具の使い方を身につける。言葉を覚える為の療育法のひとつ。

40喃語

　 言葉にならない声を発する「バブバブ」「マムマム」

41講音障害

発音がはっきりしない。発音出来ない音があり、うまく話せない。口蓋裂など器官の形態がもとになっている場合もある。舌の伝え方が未熟なために起こる場合もある。

42粗大運動（移動運動）

例　はいはいする　ボールを蹴る　ブランコに乗る　ぶら下がる　三輪車をこぐ

43微細運動（手の運動）

例　おもちゃのガラガラを振る　指先で物をつかむ　ハサミをを使う

44 2語文

「パパ　言った」

45 3語文

「パパ　会社　行った」

46栃木県の療育手帳制度

　　　　　下図を参照のこと。

47ブラッシュアップ

内容や中身を一段とすぐれたものにすること。さらに検討を加えて磨きをかけること。

48フォーマル

正式の、公式の、という意味。派生して、行政や専門機関による、という意味にも使われる。

49インフォーマル

　　　　　非公式の、内的なの、という意味。派生して、家族や友人、ボランティアによる、という意味にも使われる。

50ノーマライゼーション

　　　　　1960年代に北欧諸国から始まった社会福祉をめぐる社会理念の一つ。 障害者と健常者とは、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方。 またそれに向けた運動や施策なども含まれる。

51インクルージョン

　　　　　包括(ほうかつ)。包含(ほうがん)。全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合うということ。

52発達検査

主に乳幼児や[小学生](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B0%8F%E5%AD%A6%E7%94%9F)の発達の度合いを調べ、養育に役立てるための検査。「新版K式発達検査」「乳幼児精神発達診断法（津守式）」「フロスティッグ視知覚発達検査」「遠城寺式乳幼児分析的発達検査法」「精研式CLAC-II」などがある。心理検査の一種。

53心理検査

人間の[心理](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BF%83%E7%90%86)の検査。「知能検査」・「発達検査」・「性格検査」「行動・社会性検査」「職業適性検査」「進路適性検査」などがある。検査は被験者の環境や状態などによって影響され、結果が違ってくる場合があるので、検査前には被験者と検査者に信頼関係が樹立していなければならない。特に、年少児・[発達障害](http://www.weblio.jp/content/%E7%99%BA%E9%81%94%E9%9A%9C%E5%AE%B3)児の場合、十分な信頼関係が樹立されていないと、検査放棄や積極的な協力が得られなくなったりして続行が不可能になる危険性がある。また、検査結果も検査時の体調や感情的状態や雰囲気によって、かなり結果が変わる余地が大きい。

54アイスブレイク

　　　　　初対面の人同士が出会う時、その[緊張](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B7%8A%E5%BC%B5)をときほぐすための手法。集まった人を和ませ、[コミュニケーション](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%9F%E3%83%A5%E3%83%8B%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3)をとりやすい雰囲気を作り、そこに集まった目的の達成に積極的に関わってもらえるよう働きかける技術を指す。